

建築学科 准教授 石川恒夫  
上毛 平成21年11月11日（水）

## 巣づくりの家の住まい。

石川 恒夫

### 「食・衣・住」

健康を脅かす恐れがあるというメラミンなどの化学物質が食品から検出された問題が昨年、頻繁に報道されました。メラミンというと、建築関係者にはプラスチックの原料としてよく知られていま

す。近年、建材からの揮発性有機化合物によるシックハウス症候群の問題が取りざたされる中、「食品」の安全は、わたしには「建材」の安全と置き換えられて聞かされてくるのです。共通の課題は、商品の偽り無き完全な成分表示であることは言うまでもありません。「衣・食・住」は生活の基本であると言われますが、本来の順番は、「食・衣・住」でなければならぬと思います。食によつて肉

を守る「第三の皮膚」としての住まいがつくれるからです。

### 鳥の生態を学ぶ

体、つまり「第一の皮膚」としての身体皮膚が形成され、衣によつて季節や風土に応じた「第二の皮膚」としての衣服が織り成され、住によつて家族の生活

鳥の巣コレクターの鈴木まもるさんが描いた絵本「鳥の巣いろいろ」（借成社）を手にする機会があり、娘と共に楽しんでいきます。

鈴木さんは世界中を歩いて鳥の生態を巣の視点から調べ、生命の不思議と尊厳を訴えています。鳥は自分で材料を探し—その多くは当然、自分の活動範囲の中で得られる自然素材です—外敵や自然の脅威から守る最適な場所に、最適な形の巣をつ

わる誰もが、「巣」としての住まいを、住まい手と「共に」つくることを意識し、学ぶ必要があると感じています。そのための羅針盤がバウビオロギー（建築生物学）です。それはドイツを中心に欧米各国に広がりを見せており、人間の本性と気候風土を科学的に検証しつつ、住人の健康や地球の環境に配慮した、「巣」としての住まいづくりを目指すものです。

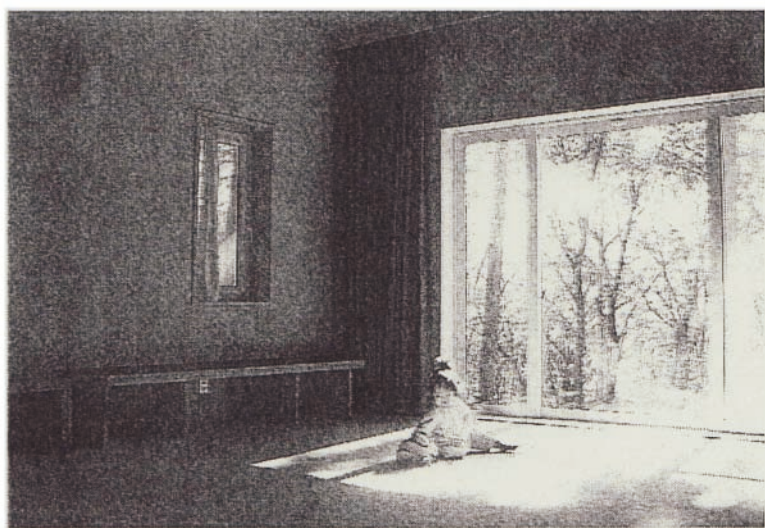
## 「共に」つくる必要性

（前橋工科大学院准教授）



いしかわ けんお

1962年東京都生まれ。早稲田大学院修士。工学博士。ピオ・ハウス・ジャパン一級建築士事務所代表。2001年から現職。長野県軽井沢町在住。



つづくを目指す

わたしは、建築に携  
バウビオロギーは生  
命を守る健康な住ま